

## 【平成 29 年 12 月の経済報告】

平成 29 年 12 月 21 日

本稿は、マイクロマシン／MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。平成 29 年 12 月の経済報告をお届けします。

### 1. 全般動向

10 月の C I（速報値・平成 22(2010)年=100）は、先行指数：106.1、一致指数：116.5、遅行指数：118.4 となった。

先行指数は、前月と比較して 0.4 ポイント下降し、2 か月連続の下降となった。3 か月後方移動平均は 0.27 ポイント上昇し、5 か月連続の上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.07 ポイント上昇し、15 か月連続の上昇となった。

一致指数は、前月と比較して 0.3 ポイント上昇し、2 ヶ月ぶりの上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.24 ポイント上昇し、2 ヶ月ぶりの上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.30 ポイント上昇し、15 か月連続の上昇となった。

遅行指数は、前月と比較して 1.1 ポイント上昇し、3 か月連続の上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.76 ポイント上昇し、3 か月連続の上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.26 ポイント上昇し、11 か月連続の上昇となった。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/201710psummary.pdf>

### 2. 各経済指標

#### ◎ 月例報告（内閣府）（平成 29 年 11 月 28 日公表）

日本経済の基調判断

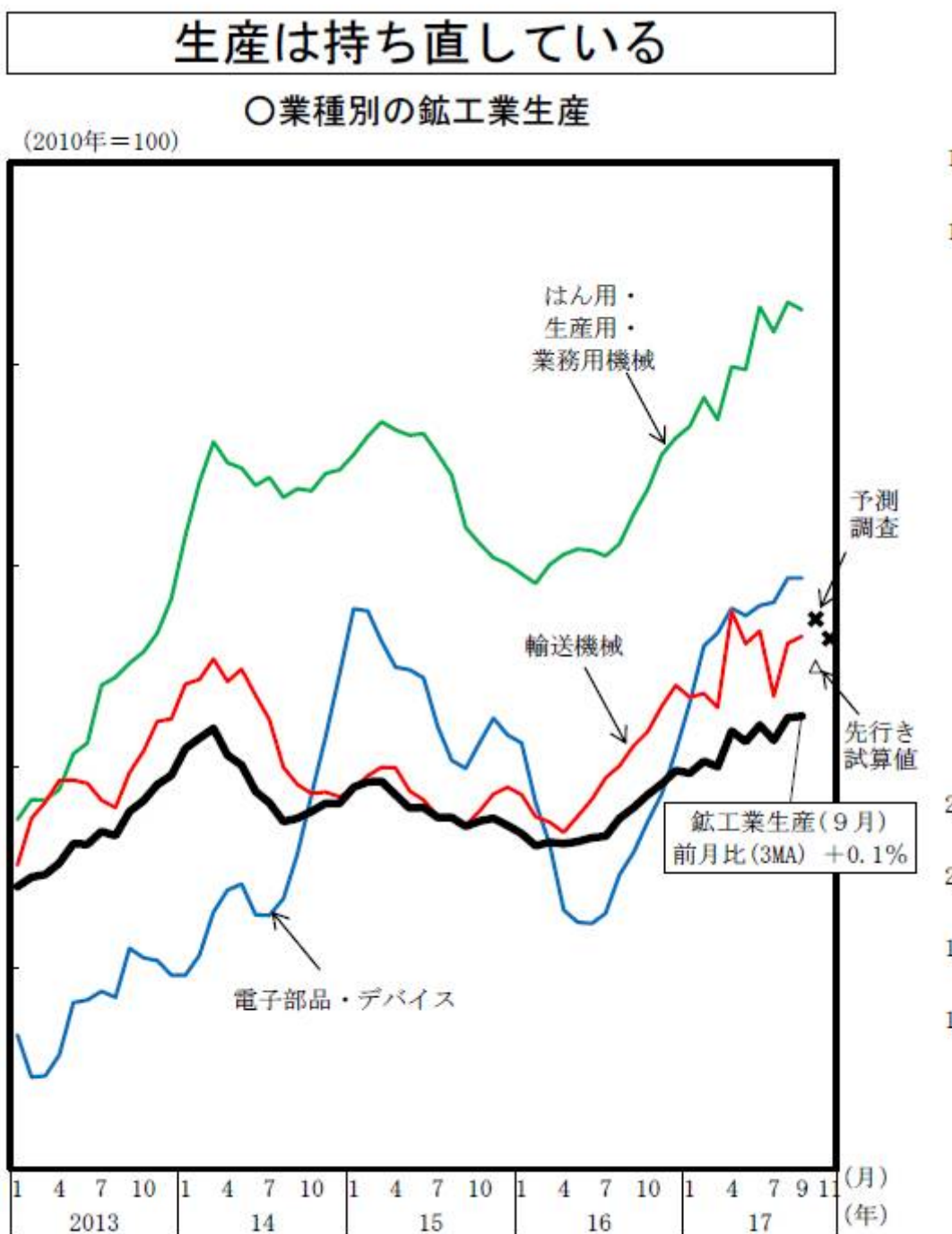
（現状）

- ・景気は、穏やかな回復基調が続いている

（先行き）

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあつ

て、穏やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。



備考) 1. 経済産業省「鉱工業指数」により作成。季節調整値。3か月移動平均値。  
 2. ×印(10、11月)は製造工業生産予測調査の値、△印(10月)は予測調査と実現値の誤差の傾向を基に算出した先行き試算値(経済産業省作成)。  
 3. グラフに掲載している各業種の鉱工業生産全体に占める付加価値ウェイトは以下のとおり。  
 輸送機械: 19.1%、はん用・生産用・業務用機械: 12.7%、電子部品・デバイス: 8.2%。

詳細は以下のHPをご参照下さい。

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2017/11kaigi.pdf>

## ◎ 設備投資

### 平成 29 年 10 月実績：機械受注統計調査報告

(平成 29 年 12 月 13 日内閣府経済社会総合研究所)

機械受注総額の動向をみると、2017（平成 29）年 9 月前月比 10.2%減の後、10 月は同 5.6%減の 2 兆 4,509 億円となった。

需要者別にみると、民需は前月比 3.3%増の 1 兆 618 億円、官公需は同 13.2%減の 2,470 億円、外需は同 4.9%増の 1 兆 508 億円、代理店は同 0.2%減の 1,195 億円となった。

民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向をみると、2017(平成 29)年 9 月前月比 8.1%減の後、10 月は同 5.0%増の 8,509 億円となった。このうち、製造業は同 7.4%増の 4,213 億円、非製造業（除く船舶・電力）は同 1.1%増の 4,377 億円となった。

### 対前月(期)比

(単位:%)

需要者	期 月	2016年	2017年				2017年			
		(平成28年)	(平成29年)	4-6月	7-9月	10-12月	(平成29年)	8月	9月	10月
		10-12月	1-3月	(実績)	(実績)	(見通し)	7月	(実績)	(実績)	(実績)
		(実績)	(実績)				(実績)			
受 注 総 額		13.4	-7.9	1.7	7.3	-1.9	4.9	8.5	-10.2	5.6
民 需		10.9	-14.4	-0.9	7.9	-8.7	1.1	6.2	-2.9	3.3
〃 (除船電)		0.8	-1.4	-4.7	4.7	-8.5	8.0	3.4	-8.1	5.0
製 造 業		2.7	-4.2	3.7	8.2	-9.4	2.9	16.1	-5.1	7.4
非製造業(除船電)		-1.0	0.0	-9.9	1.6	0.9	4.8	3.1	-11.1	1.1
官 公 需		13.5	-1.9	-17.6	14.8	-3.3	-3.3	17.8	-30.9	13.2
外 需		15.5	-2.2	9.6	9.2	5.6	9.1	11.5	-9.8	4.9
代 理 店		-0.1	2.2	4.2	-1.0	-2.3	-0.6	-0.6	-4.9	-0.2

(備考) 季節調整値による。季節調整系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の季節調整値とは一致しない。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/1710juchu.html>

## ◎ 鉱工業指数調査

【最新プレス情報 平成 29 年 10 月分】 (平成 29 年 12 月 14 日発表)

鉱工業指数(生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数)  
～製造業の動きから見る日本の景気～

<概況>

製造工業稼働率指数は、102.0 で前月比 0.2%の上昇であった。

製造工業生産能力指数は、94.6 で前月比 0.3%の上昇であった。

製造工業生産能力・稼働率指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数		
	指数	前月比	指数	前月比	前年同月比
稼働率	102.0	0.2	102.8	-0.8	5.0
生産能力			94.6	0.3	0.1

鋁工業指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比	指数	前年同月比
生産 (速報値)	103.0 (103.0)	0.5 (0.5)	104.7 (104.7)	5.9 (5.9)
出荷 (速報値)	98.9 (98.8)	-0.4 (-0.5)	99.7 (99.6)	2.7 (2.6)
在庫 (速報値)	110.7 (110.6)	3.2 (3.1)	112.2 (112.1)	2.0 (1.9)
在庫率 (速報値)	114.2 (114.2)	3.5 (3.5)	114.9 (114.9)	1.8 (1.8)

<電子部品・デバイス工業、電気機械工業>

(1) 10月の製造工業稼働率指数は、102.0 で前月比 0.2%の上昇であった。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械工業同 4.3%、電子部品・デバイス工業同 3.9%、非鉄金属工業同 1.8%等が上昇し、化学工業同▲4.1%、石油・石炭製品工業同▲3.0%、鉄鋼業々▲1.8%等が低下した。

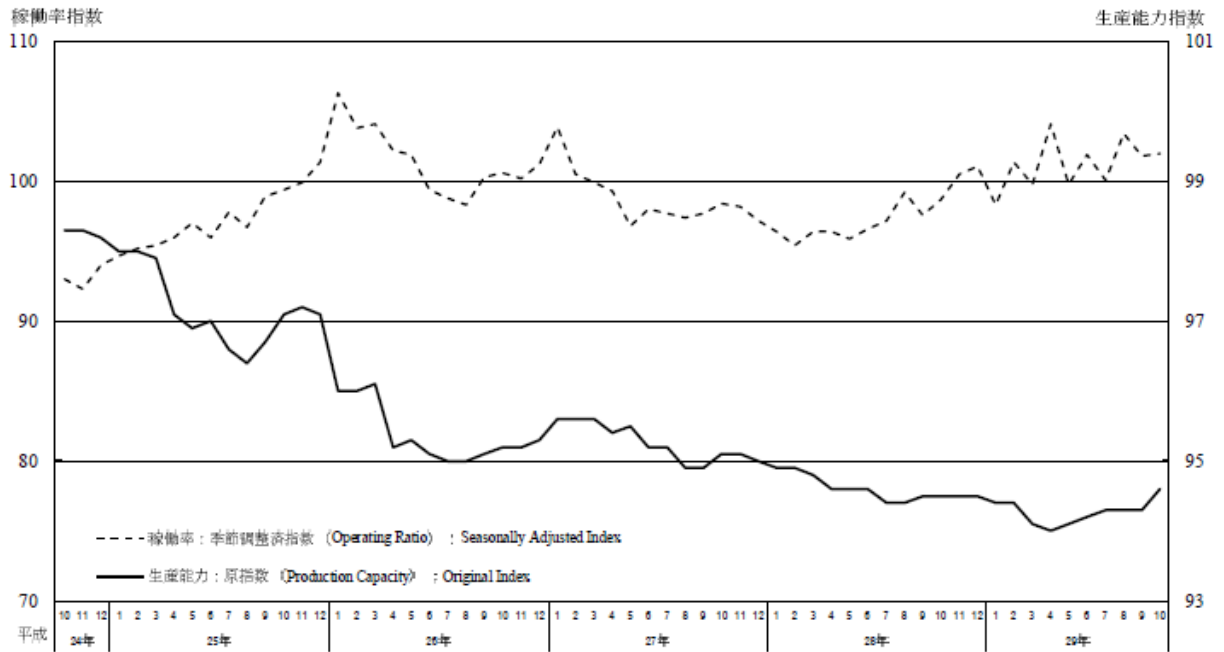
(2) 10月の製造工業生産能力指数は、94.6 で前月比 0.3%の上昇であった。

業種別に見ると、電子部品・デバイス工業同 3.3%、化学工業同 0.1%、情報通信機械工業同 0.1%等が上昇し、はん用・生産用・業務用機械工業同▲0.4%、繊維工業同▲0.4%、鉄鋼業々▲0.2%等が低下した。

### 製造工業生産能力指数・稼働率指数の推移(グラフ)

Historical Data (Graph) for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

(平成22年基準)  
(2010 average=100)



**製造工業生産能力指数・稼働率指数の時系列表**  
 Historical Data for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

平成22年 = 100  
 index, 2010 = 100

年 月	稼働率 Operating Ratio				生産能力(末) Production Capacity			Year and Month	
	季節調整済指数 Seasonally Adjusted Index		原指数 Original Index		原指数 Original Index				
	前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)		前年 (同月期)比 %Change From Previous Year		前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)		前年 (同月期)比 %Change From Previous Year		
平成 26 年			101.3	4.1	95.3		▲ 1.9	C.Y. 2014	
27			98.7	▲ 2.6	95.0		▲ 0.3	C.Y. 2015	
28			97.7	▲ 1.0	94.5		▲ 0.5	C.Y. 2016	
平成 26 年度			100.6	0.6	95.6		▲ 0.5	F.Y. 2014	
27			98.0	▲ 2.6	94.8		▲ 0.8	F.Y. 2015	
28			98.6	0.6	94.1		▲ 0.7	F.Y. 2016	
平成28 年	Ⅲ期	98.0	1.8	98.2	▲ 0.5	94.5	▲ 0.1	▲ 0.4	Q3 2016
	Ⅳ期	100.1	2.1	99.6	1.8	94.5	0.0	▲ 0.5	Q4 2016
平成29 年	Ⅰ期	99.8	▲ 0.3	101.9	3.7	94.1	▲ 0.4	▲ 0.7	Q1 2017
	Ⅱ期	101.9	2.1	100.2	5.8	94.2	0.1	▲ 0.4	Q2 2017
	Ⅲ期	101.8	▲ 0.1	101.4	3.3	94.3	0.1	▲ 0.2	Q3 2017
平成28 年	8月	99.2	2.1	93.2	4.5	94.4	0.0	▲ 0.5	Aug. 2016
	9月	97.6	▲ 1.6	100.9	▲ 0.9	94.5	0.1	▲ 0.4	Sep. 2016
	10月	98.7	1.1	97.9	▲ 1.8	94.5	0.0	▲ 0.6	Oct. 2016
	11月	100.5	1.8	101.5	4.4	94.5	0.0	▲ 0.6	Nov. 2016
	12月	101.1	0.6	99.3	3.0	94.5	0.0	▲ 0.5	Dec. 2016
平成29 年	1月	98.3	▲ 2.8	96.2	3.6	94.4	▲ 0.1	▲ 0.5	Jan. 2017
	2月	101.4	3.2	99.6	3.9	94.4	0.0	▲ 0.5	Feb. 2017
	3月	99.8	▲ 1.6	109.8	3.5	94.1	▲ 0.3	▲ 0.7	Mar. 2017
	4月	104.1	4.3	98.7	6.2	94.0	▲ 0.1	▲ 0.6	Apr. 2017
	5月	99.8	▲ 4.1	96.2	5.7	94.1	0.1	▲ 0.5	May 2017
	6月	101.9	2.1	105.6	5.5	94.2	0.1	▲ 0.4	Jun. 2017
	7月	100.1	▲ 1.8	103.5	3.0	94.3	0.1	▲ 0.1	Jul. 2017
	8月	103.4	3.3	97.1	4.2	94.3	0.0	▲ 0.1	Aug. 2017
	9月	101.8	▲ 1.5	103.6	2.7	94.3	0.0	▲ 0.2	Sep. 2017
	10月	102.0	0.2	102.8	5.0	94.6	0.3	0.1	Oct. 2017

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

[http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010\\_201710nj.pdf](http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010_201710nj.pdf)

**2. その他の動向**

1) 電子部品グローバル出荷統計

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) は、電子部品グローバル出荷統計の最新版月別出荷金額 (2017. 11. 30 発表) を公表しました。

・ 2017 年 9 月グローバル出荷額は 3,767 億円、前年比 111.2% となり、前年比プラスとなった。

・ 品目別出荷は受動部品 (前年比 114.3% 1,344 億円)、接続部品 (同 111.9% 1,020 億

円)、変換部品(同 121.0% 885 億円)、その他の電子部品(同 91.2% 517 億円)となった。

・地域別出荷は、日本(前年比 111.3% 901 億円)、米州(同 103.5% 323 億円)、欧州(同 117.6% 359 億円)、中国(同 108.4% 1,349 億円)、アジア・その他(同 116.7% 837 億円)となった。

## 【月別出荷金額】

電子部品出荷額(億円)	2017年度						2017年度累計		
	7月		8月		9月		4月-9月		
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	
世界計	3,362	115	3,461	111	3,767	111	20,123	110	
(日本)	791	116	755	111	901	111	4,683	112	
品目別	受動部品	1,212	116	1,236	109	1,344	114	7,214	111
	コンデンサ	824	117	831	108	927	117	4,907	112
	抵抗器	130	114	128	109	138	115	777	111
	トランス	37	109	36	110	37	104	227	104
	インダクタ	219	113	240	109	241	103	1,302	107
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-
	接続部品	934	121	983	119	1,020	111	5,596	116
	スイッチ	410	121	423	119	446	111	2,419	110
	コネクタ	518	122	553	120	568	112	3,144	122
	その他	5	121	5	112	5	106	32	114
	変換部品	726	114	745	114	885	121	4,381	112
	音響部品	162	143	144	108	204	113	971	113
	センサ	354	107	356	108	382	114	2,096	107
	アクチュエータ	209	109	244	128	298	137	1,312	118
	その他の電子部品	489	102	496	97	517	91	2,931	95
	電源部品	190	111	195	106	206	102	1,189	109
高周波部品	299	96	300	92	311	84	1,741	87	

## 【地域別出荷金額】

地域別出荷金額(億円)	2017年度						2017年度累計	
	7月		8月		9月		4月-9月	
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)
グローバル	3,362	115	3,461	111	3,767	111	20,123	110
日本	791	116	755	111	901	111	4,683	112
米州	295	104	320	100	323	103	1,861	102
欧州	323	126	321	115	359	117	1,997	112
中国	1,188	109	1,252	107	1,349	108	7,076	106
アジア他	768	124	816	120	837	116	4,522	117

### ※電子部品グローバル出荷統計について

- ・本統計は、電子部品部会で実施している「電子部品企業のグローバル動向調査」を基に作成しております。
- ・本調査は、参加70数社から提出された、連結ベース(グループ間取引調整後)の出荷額データを取りまとめており、地域に関するデータは、原則として該当部品が消費される地域への出荷となります。  
なお、合計値につきましては、単位未満切り捨てのため、一致しない場合がありますので、ご了承ください。

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

[http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info\\_stati.html](http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html)

## 2) MEMS 関連最新調査

米国調査会社マインドコマース(Mind Commerce)の調査レポート「MEMS(微小電気機械システム) 2017 - 2022 年 : コンポーネント、製品、用途、垂直市場」は、MEMS のエコシステム、企業、製品、サービスなどの市場を査定している。2017-2022 年の MEMS 市場の機能、機器、用途、垂直市場を予測し、世界市場と地域毎に提供している。

内容は、

- \* 内蔵システムと MEMS
- \* MEMS 市場促進要因
- \* 企業分析
- \* MEMS 市場予測

となっています。

サマリーは以下の HP をご参照下さい。

<http://www.dri.co.jp/auto/report/mindc/mcmems.html>

以上